

会 議 録

標 題	令和8年度第1回藤枝市地域公共交通会議次世代モビリティ活用研究分科会会議録		
年月日	令和8年9月15日	相 手	藤枝市地域公共交通会議次世代モビリティ活用研究分科会委員 委員出席名 11名 欠席1名（健康福祉部長 杉村委員） 事務局：地域交通課
時 間	午後1時30分から 午後3時20分まで		
場 所	藤枝市役所庁舎別棟第1会議室		
作成者	地域交通課 主任主査 竹下 久登 ㊞		

開 催 内 容

1 開 会

2 会長挨拶

- ・全国各地で線状降水帯による大雨の被害が発生しているため、皆様においてもしっかりと災害への備えをお願いしたい。
- ・本分科会は、人の流れを把握するための手法を学び、次世代モビリティ活用研究に向けた検討し、本市の将来の交通ネットワークをより効果的なものに構築していくためのもの。

3 実施内容

■「移動ニーズ」・「交通空白」の課題把握のための人流データ分析の活用について

(1) 情報デジタル推進課職員より人流分析システム「マチレポ」「コンプレノ」の説明 (30分)

- ・本市では令和4年度から人流分析システムを活用してきた。
R4～R7：KLA（KDDI提供）、R8：agoop（ソフトバンク提供）
新システムとなってから、全ての大手携帯キャリアのデータを収集できるようになった。
- ・「マチレポ」「コンプレノ」：いつ/どこに/どんな人/どんな動き を把握可能。
「マチレポ」：数字・グラフで分析 「コンプレノ」：動画で視覚的に人流を確認可能
- ・情報収集に同意した人のみのデータを活用。
情報提供同意者/人口の比率から推計した値で分析（実人数との誤差は5%～10%程度）。
- ・「コンプレノ」は人流の可視化により災害時にも役立っている。
- ・今後新機能実装により「交通空白」地域の把握にも期待できる。

(2) 加藤博和特別委員からのプレゼン・コメント (30分)

- ・パワーポイント資料に沿って説明。
- ・公共交通の重要性はSDGsにおける達成目標の1つとして明示されている。
- ・公共交通の目指すキーワード⇒自立・活力・交流
公共交通の理想を言えば「誰もがいつでもどこでも安く使えてバリアフリーで便利になること」だが、現実的には「それぞれが使える手段を提供しながらできるだけまとまった体系とし、少し我慢すれば誰もが使えるもの」。
- ・AI オンデマンド交通は解決策の切り札ではなく、一長一短なので注意が必要。
⇒人流の密度が高くないとそもそも乗合が発生しない、「バスより高いけど快適&タクシーより安い」で人気になり利用が集中するとバス・タクシー業界が減びてパンクする。
- ・同様に、自動運転車両も便利だからと移動手段がそれだけに集中した社会になると交通網がパンクし身動きがとれなくなるため、便利な移動は高額な価格設定をする等して、それが無理な人は鉄道やライドシェア等の移動手段を乗り継いで移動してもらうような仕組みにしていける必要がある。⇒ Maas。既存公共交通を維持していく重要性。
- ・上記を満たすような効率的な仕組みを構築していく時に、「マチレポ」のようなデータやモニタリングによる整理・分析が必要になってくる。ただし、公共交通の分野は単にたくさん人流データを集めれば、それが解決策に直結するものではなく、特定の「セグメンテーション（分

類)」をしてデータを加工する必要がある。

分類例：地理、年齢、性別、所得、家族構成、ライフスタイル etc…

- ・公共交通の潜在的なニーズは、人流データを見ているだけでは把握が難しい。理由は、自家用車で移動している人は公共交通を意識しておらず、車で移動できない人は車移動がない中での生活をしているため。

⇒膝詰め（話し合いの場を設けて様々な視点・状況・気持ちの共有と考察）が有効。

4 質疑応答・意見交換

<池谷委員>

人流解析システムは同意した人から情報収集しているとのことだが、どこで同意するのか。また、人口からの推計値を使用しており誤差が5%～10%とのことだが、人口14万に対して何人くらいのデータ収集ができれば統計学的に望ましいと考えているか。

⇒（市）各ユーザーの携帯端末にてGPSを使用する際に、情報収集に「許可する」を押下した人を同意した人として対象者としている。人口に対して何人からの情報収集がよいという具体的な数値は掲げていないが、全キャリアから情報を収集できるため、全システムに比べると高い精度の情報を活用できていると考えている。

<永野委員>

レベル2の実装→三鷹市がAI オンデマンド交通で成功していると聞いていたが、加藤先生の話聞き、都会と田舎では状況が違うので、一概に藤枝市で実装すればいいというものではないと思った。施策検討に「マチレポ」等のデータ分析が使えるか。

⇒（加藤委員）三鷹市の隣の武蔵野市はコミュニティバスの発祥地であり黒字化した。東京では補助なしでのコミュニティバスの運行をしている所もあるが、地方ではありえないこと。それほど状況が異なる。

<藁科委員>

エビデンスの重要性→首長や議員がどこどこにバスを走らせてくれと言うが、そのエビデンスは地域の人が言っていたという程度のもので、根拠に乏しい。そのまま実走するとそれこそ「乗る乗る詐欺」にはまってしまうのでデータ分析のエビデンスを大事にしたい。そのデータ分析に「マチレポ」等が活用できるのでは。

5 その他（連絡事項等）

<池谷委員>

加藤先生の時間が許す限り、講演等を開催してほしい。勉強したい。

⇒（市）加藤先生と相談しながら、可能な限り意向に沿えるように検討する。

6 閉 会

(以上)